きらり人輝く

人と人とのコミュニケーションを保障し、つながりを支援

手話が伝える思い

Name

櫻庭 千里 さん

さくらば・ちさと（宇部町・59歳）

Profile

北海道出身
平成10年～令和４年県ろうあ者・盲ろう者相談員
平成11年　久慈市手話奉仕員　取得
平成15年　手話通訳者　取得
平成30年　手話通訳士　取得
■手話サークル「輪っこの会」
▶**活動日時**…毎週木曜日18時30分～
▶**会場**…中央市民センター
■久慈市手話奉仕員養成講座
詳しくは25㌻手話奉仕員募集をご覧ください。

知事の記者発表やさまざまなイベントで通訳を努めている櫻庭さん。聴覚障がいのある人へ情報を伝え続ける活動への思いなどを聞きました。

■活動のきっかけ

北海道で、平成７年に手話講座を受講したことがきっかけです。縁あって久慈市民になり、県の相談員として働きながら手話通訳士の資格を取得しました。最初から通訳士を目指していたわけではありませんが、時には命を守る場面など手話通訳の重要性を考えスキルアップに励んできた結果、通訳士につながったと思います。資格取得はとても大変だったので、合格は本当にうれしかったです。

■手話通訳で大切にしていること

手話から日本語へ、日本語から手話へと二つの言語をつなぎコミュニケーションを成立させることが手話通訳の仕事です。わかりやすい手話表現、聞きやすい日本語を意識しています。手話のスキルが重要になってきますので、専門用語や新しい言葉が出てくるなかで「手話も日本語も堪能でありたい」と最近ではオンライン研修会を受講。常に学びを続けています。

■これまでの活動を通して思う事

家族への感謝です。通訳はもちろん、研修会などに出掛け留守にすることが多くありました。どんな時でも、いつも気持ちよく送り出してくれます。私の活動の一番の理解者である家族に、心からありがとうと伝えたいです。

■今後の活動について

地域に手話に関わる人を増やしていきたいです。手話奉仕員養成講座の講師や手話サークルを続けていきますので、皆さん気軽に参加ください。

集まれ！元気の輪

いずみクラブ

代　　表：外島　明子　さん
活動場所：小久慈市民センター　☎59-3051
活 動 日：毎週金曜日　19時30分～21時

ファインプレーで練習も盛り上がります

笑顔でガッツポーズ

いずみクラブは平成７年に結成されたママさんバレーボールサークルで20代～60代の９人で活動しています。

練習は好プレー以上に珍プレーの続出で、笑いの絶えない楽しい時間。勝敗だけにこだわらず、チームワークを大事に、市内のママさんバレーボール大会や管内のチームとの親善試合に参加しています。

メンバーは随時募集中。独身の人、子どもを連れての参加も大歓迎です。経験がない人、どんな年代の人でもママさんバレーボールに興味のある人はぜひ一度遊びに来てください。

My life in Kuji

市内の小・中学校で英語を教えているALT（外国語指導助手）の皆さんが、久慈で生活していて感じたことなどを紹介するコーナーです

ムハンマド・リズキ・アブマーさん

豪メルボルン・29歳／久慈湊小、小久慈小、大川目小、夏井小、平山小、久慈中、夏井中を担当

感謝の言葉

北海道へ旅行に行き、夜景を見ることができました。北海道のお土産といえば、クッキーやチーズのお菓子や高級メロンなど一般的ですね。私は旅先で転び怪我をしてしまい「膝の皿を割る」という特別なお土産を持って帰ることになってしまいました。

怪我自体は、不運としか言いようがありませんが、それ以外のことはある意味「ラッキー」で、函館から久慈までどうにか無事に戻ってくることができました。手術も成功しましたし、リハビリもスムーズで、順調に回復に向かっています。

この経験から学ぶべきことがあるかどうか分かりませんが（函館の朝５時に凍った歩道を歩くことに注意することを除いて）休日にも関わらず、助け出してくれた皆さん。皆さんの助けがなかったら、知らない土地で、どうなっていたのか想像もつきません。そして治療に携わってくださった皆さんに、とても感謝しています。

本当にありがとうございました。

市民センターだより

山形市民センター
☎72-3711

山形市民センター事業紹介

内間木洞氷筍観察会

山形市民センターは、環境保護事業として山形村時代から続く内間木洞氷筍観察会を開催しています。３年ぶりとなった令和４年度は２月12日に実施。遠くは関東からも訪れ約350人が来場しました。

氷筍は地面から延びる氷の柱で、条件が整わないとできない珍しい現象です。内間木洞は保護のため一般開放されていないことから、中に入る機会は少なく、特にも氷筍を見るチャンスは年に一回の観察会以外はありません。参加者からは「来てよかった」「素晴らしかった」と好評をいただきました。

小国自治会でも氷筍まつりを同時開催。地元町内会の手打ちそばや熊鍋やシカ肉などといった郷土食などの出店を行い、来場者をもてなしていました。

山形町には多くの自然が残り、多くの魅力があります。これらの資源を地域住民が見つめなおす機会となるとともに、広く発信することで交流が活発となり、地域の活性化につながることを期待しています。

令和４年度地域おこし協力隊アンバーホールで事例発表

地域でがんばる移住者発表会in北いわて

２月23日、アンバーホール小ホールで県北地域で活動する地域おこし協力隊の事例発表会が開催され約80人が参加しました。

シラカバを活用した商品開発などを進める阿部大地（あべだいち）さんと芸術活動で市を盛り上げたいと活動している山下竜司（やましたりゅうじ）さんが、これまでの経緯や将来に向けた活動の目標などを発表。思いを伝えました。

パネルディスカッションでは、活動を支援する一戸町の職員や地域おこし協力隊で漁業に向けた取り組みを行っている西村一章（にしむらかずあき）さん、洋野町協力隊ＯＢの大原圭太郎（おおはらけいたろう）さん、一戸町協力隊ＯＧの荒内雅美（あらうちまさみ）さんの４人が参加。久慈市移住コーディネーターの藤織（ふじおり）ジュンさんが司会を務め、これまで経験して感じたことや現在の活動など、活発な意見交換が行われました。エントランスホールでは、県北圏域内の現役協力隊の活動内容がわかるパネルが一堂に展示され、それぞれの活動が一目瞭然。真剣な表情で見入る人であふれました。。

●**地域おこし協力隊**…移住定住を目的に、都市部からの移住者に対して市が委嘱。地域おこしの支援（地域行事やイベントの応援、地域ブランドや地場産品の開発・販売・ＰＲ、情報発信など）や農林水産業への従事、住民の生活支援など「地域協力活動」を行います。